



平成31年1月25日発行

- P2 平成30年12月議会概要
- P3 賛否一覧
- P4～12 一般質問で町政を問う
- P13 常任委員会活動報告
- P14 議会出前講座
- P15 最近の議員活動、要望書
- P16 編集後記

■標題は有明東小学校5年
伊東実桜(いとう みお)さんの作品です

議会だより

平成30年 **12** 月議会
第**56**号



やまぐち ももか

■表紙は あかり保育園 山口 杏花さんの作品です。テーマ「おゆうぎかい」

12月定例議会概要

12月定例議会は、12月14日から21日までの8日間で行いました。

町長から、平成30年度補正予算、条例、教育委員の任命など9件の議案が提出され、各議案は本会議での審査を経て、可決・同意しました。

一般質問は9人が行い、まちづくり、防災対策、交通安全、農業振興、高齢者支援、学校教育などについて、執行部の考えを質しました。

補正予算
ピックアップ



一般会計補正予算2,237万円を増額・可決
一般会計予算総額は**146億3,371万円**に

◆空き家バンク事業(276万円)

空き家バンク登録物件の成約件数の増加に伴い、流通促進奨励金と物件改修補助金に係る費用を増額するもの

◆日中一時支援事業費(130万円)

障がい者等の一時預かり事業の利用が見込みより増加したため増額するもの。

◆農業基盤整備促進事業(5,500万円)

新開地区の未舗装農道の舗装工事及び地盤沈下対策水路65号、66号に係る法面の補修工事を行うもの。



●議案の説明を受ける



●議事を進行する片刈米二郎議長

平成30年12月議会定例会には、
12月14日⇒1人
12月18日⇒10人
12月19日⇒26人 合計37人
の傍聴者にお越しいただきました。
皆さんの傍聴をお待ちしています！



賛否一覽

賛成 …… ○ 反対 …… ● 欠席 …… 欠

	議案番号	議 案	結果	友田香将雄	重富邦夫	中村秀子	定松弘介	川崎一平	前田弘次郎	溝口誠	大串武次	吉岡英允	片刈彰	草場祥則	井崎好信	内野さよ子	西山清則	溝上良夫
12月定例会	50	下水道事業の設置等に関する条例の制定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	51	学校統合再編審議会条例の制定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	52	育英資金貸付条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	53	教育委員会 教育長の任命について(北村喜久次 氏)	同意	無記名投票による採決														
	54	教育委員会委員の任命(稲佐英明 氏)	同意	無記名投票による採決														
	55	平成30年度一般会計補正予算(第3号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	56	平成30年度国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	57	平成30年度農業集落排水特別会計補正予算(第3号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	58	平成30年度特定環境保全公共下水道水道特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※議長は賛否の意思表示をすることはできません。採決の結果、可否同数となった場合は議長が裁決権を行使します。

議会ポスト意見紹介

- 施設設備が立派でしたが、各席にタブレットが備えてあれば今後便利だろうと思います。大型画面により資料を写し出すことも可能で、印刷物のみでは時代に合わなくなりそうです。
(60歳代女性)
- 静粛な中で、整然と一般質問が行われていることに、まずは感心しました。応答する行政側としては、どうしても抽象的にならざるをえないと思う事項もありました。
(60歳代女性)
- 農業の後継者問題も大変だと思います。本当に十分な検討を考えないと、今後の町の運営はできないと思う。
(80歳代男性)



●町長の提案理由説明



草場 祥則 議員

問 町長公約の実現に向けての状況は

答 各種施策については概ね実行に移し、公約達成に向けて努力している

議員 町長公約の実現

に向けての状況と町長の所感は。

町長 2期目の公約は、「笑顔で元気に暮らせる豊かなまちをつくる」とし、町の活性化を図ることと町の安全を図ることの2点を大きな柱としている。

「町の活性化を図る」実現のため、働ける場をつくる、白石へ人の流れをつくる、少子化対策、子育てサポート、高齢化社会に対応する

ことなどを掲げ、また、「町の安全を図る」実現のため、河川・海岸堤防の補強や浸水・冠水対策、土砂災害対策を実施し、子どもや高齢者に優しい道づくり、交通安全対策などを掲げている。

以上の各種施策については、概ね実行に移し、達成に向けて努力しているが、まだまだ仕上げには課題も多く、町議会、町民の皆様との指導と協力が必要で

ある。

議員 町の基本理念である「人と大地がうるおい輝く豊穡のまち」について、どのような考えを持っているのか。

町長 白石町を表す素晴らしいものである。町外の方を本町にお招きする場合、まず犬山城、歌垣公園や桜の里に案内し、広大で整った美しい田畑や曲がりくねった六角川と塩田川、有明海につながる豊かな自然を見ていただく。皆様は、このような平坦で広く素晴らしい町を見たことがないと言われる。また、町民の皆様は働き者で明るく優しい人ばかりであり、この基本理念を表していると考えている。

問 若い人が将来に希望を持てる農業基盤の確立を

答 集落ぐるみで維持発展していくことが、今後の発展に欠かせない

議員

若い人が将来に希望が持てるような農業経営基盤の確立が必要では。

を基に、相互が維持発展していくことが今後の本町の農業に欠かせないと考える。

農業振興課長 現在、農事組合法人が9組織、集落営農組合数は

12組織であり、法人化比率は約83%となっている。

議員 佐賀農業高校をもっと活用できないものか。

学校教育課長 佐賀農業高校が町内にあることを本町農業の強みと考え、今後も核となる人材を輩出されることを期待している。



●農林水産大臣と農業者との意見交換会

問 企業誘致の取り組みは

答 県企業立地推進協議会で活動している

議員 第2次白石町総

合計画においては、本町の特性に合った企業誘致のため、国・県・周辺市町との連携により企業誘致活動を推進していくとされているが、これまでの取り組み状況について、本町における企業誘致への課題と問題点は何であると考えているのか。能動的な姿勢での取り組みは。

企業立地推進協議会で情報の提供・共有を行い活動している。

また協議会主催により研修や講演会及びホームページ等での物件紹介や、食品関連企業を希望し、企業訪問を行っている。

本年度から企業誘致のノウハウを学ぶ目的で職員1名を県企業立地課に派遣中である。

産業創生課長

県企業

立地課及び県内全ての市町で組織する佐賀県

業訪問の課題と問題点は、企業が進出する受け皿である土地等の確保



溝上 良夫 議員

が必要であり、本町については平地のほとんどが優良農地で土地利用規制が厳しく、受け皿確保が厳しい問題もある

が、昨年度「農村地域工業等導入促進法」が大幅に改正され、土地利用規制等に関係する各課との協議検討を行っている必要がある。

議員 土地利用計画、公共施設の統廃合計画と併せて、どのようなビジョンを検討されているのか。

白石創生推進専門監 企業誘致ゾーンは、長崎自動車道や有明海沿岸道路へのアクセスの良さから、町への新たな産業の立地等を展望した戦略的な利用を図る区域と位置づけ、また、公共施設の再配置による跡地も、条件によっては企業誘致の受け皿としての可能性も考えている。

問 山林の荒廃の対策は

答 まずは荒廃の状況調査を行うことが重要である

議員

近年は、山林所有者の高齢化や木材価格の低迷等の要因により、山林を適正に維持していくことが困難な時代になり、山林の荒廃が目立つようになって

いる。山林（竹林）の現状と対策は。

農村整備課長 本町においても、管理が行き

届かない山林が増加している現状である。山林の荒廃状況については、まだ正確に把握できていない。1年間に取組まれる事業も限られていて、整備が進まない状況である。まずは荒廃の状況調査を行うことが重要である。

問 行政に専門的な人材の活用を

答 各種審議会や協議会に委員として参画していただいている

議員

年々住民の行政への期待するニーズは高まり、専門性が必要な業務も増加していると思われる。本町において専門的な技能や免許を持つ臨時職員の採用と配置状況について

問う。

総務課長 1級建築

士及び1級建築施工管理技士の資格を持つ方と水利施設等の維持管理業務など専門的な知識・技術・経験を有する方を配置している。

議員 行政組織にとら

われず、住民の方や退職された職員などの専門的な知識をタイム

リーに活かしていく仕組みづくりも必要ではないか。先駆的に取り組む考えはないのか。

白石創生推進専門監

専門的な知識を有する人材の活用については、各種審議会や協議会に委員として参画していただいている。



●若手職員による政策立案研究発表



重富 邦夫 議員

問 農業個別経営体の強化支援を

答 国・県の各種事業を有効に活用し
経営強化に努める

議員 白石町農業の将来を

考える上では、個別経営体の強化が必要では。

農業振興課長 町では

『人・農地プラン』を作成しており、各種補助事業を活用することで経営強化に繋がると考える。施設園芸では、『さが園芸農業者育成対策事業』があり、革新的技術、省工ネ省力化技術の普及、新規就農者育成により儲かる園

芸農業を確立する。

農業委員会局長 担い

手へ農地の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進等、利便性の確保を推進している。

議員 やる気ある個別

経営体の方達は、農業経営者として成熟されている。その方達の先見的な意見の集約と支援は。

農業振興課長 個別経

営体の方達で『水田農業

担い手研究会』を組織され技術の研鑽や情報交換がなされている。その

活動に対し白石町農業再生協議会やJAが支援している。

問 大規模工事周辺の農業用水の
定期的な調査を

答 農業への影響が懸念される場合は、
定期的な水質検査も必要である

議員 工事周辺の農

業用水の水質変化の把握は。

生活環境課長 定期的

な水質採取地点以外は、異常があった場合に、臨時的に検査

しており、大

型公共事業

周辺の水質

変化までは

把握してい

ない。

議員 周辺

地域農業の不安解消のためにも、水質調査等の配慮が必要では。



●下水道できれいな水をいつまでも
(マンホールカード配布中)

生活環境課長 農業用

水の水質については、重要な問題として十分認識している。影響が懸念される場合は、定期的な水質検査も必要である。

問 べと病等、風評被害から生産者を守る
必要があると思うが

答 佐賀県べと病対策会議を中心に風評
被害の防止に努める

議員 29年産玉葱で

は、べと病発生初期の時点において、ネット

ニュースに取り上げら

れている。即座の対応で、収量に大きく影響

はなかったものの、その情報により輸入品が

入り価格に影響がでたという話がある。価格

対応を検討している。

安定には正確な情報提供が必要では。

農業振興課長 佐賀県

農業技術防除セン

ターが主体となり、病害虫発生予察情報を発信している。注意

報・警報をマスコミに出す前に関係機関と

対応を検討している。

問 姉妹都市提携をして交流人口、特産品の消費拡大につなげるべきでは

答 お互いに協力し合える関係づくりも
必要。今後のきっかけに期待する

議員 お互いに無い

物を補完し合い、イベント等を通じ特産品のPR、交流人口の流れをつけるため自治

体間の深い付き合い

が必要では。

町長 地名、歴史、産

業、文化等での共通点

に加え、お互いにメリットがある協力関係も必要。町民や町議会の皆様の提案や働きかけをお願いしたい。



内野 さよ子 議員

問 須古城の国指定への期待が高まっているが

答 認識はしているが予算・人員配置など課題山積である

議員 県教育委員会において、平成14年度から中近世の城館調査が行われた。

その後平成20年3月の報告会では、須古城は北部九州の歴史上においても最大級に位置づけられると報告された。先月11月25日には、調査を担当された講師を迎えて、須古歴史観光振興会主催による講演会が行われたが、これを受けて、町はどのように考えられたか。

町長 改めて須古城のスケールそのもののみならず、歴史的・文化財的重

要性を認識させられた。指定にあたり、予算的なこと、人員配置など大きな課題があり、県の指導を受けながら考えて行かねばならない。

議員 平成29年9月議会では、史跡指定については県の文化財課の指導を受けながら、可能性を検討したい旨の答弁であった。どのように検討されて、進められているのか。

生涯学習課長 国史跡指定に係る要点について再度説明する。

①指定範囲は中心部だけでなく、外堀の内側

全て

②学術的評価を確定させる発掘調査が必要

③発掘調査は、調査指導員会の指導の下で実施

④指定対象全域の地形測量図の作成

⑤発掘調査終了後、総括報告書の作成

⑥発掘調査から報告書の刊行まで国庫補助事業として行うこと

⑦国史跡指定の手続き開始の前段階として、中近世遺跡関係の国の委員会等で事例報告を求められる可能性

等の大きい課題がある。進捗状況について具体的に申し上げるまでには至っていない。

議員 歴史や文化を後世に伝え保存して行くためにも、歴史資料館を早期に整備する必要があるのである。

生涯学習課長 今後、公共施設の統廃合による集約化や複合施設化等の個別計画の策定が進められていくため、その中で歴史資料館についても検討して行く。

問 「地域づくり検討委員会」が設置されたが、目的・背景は

答 社会情勢の変化に対応し、協働によるまちづくりを目指すため

議員 白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略が平成27年に策定されたが、地域づくり検討委員会が設置された目的・背景について問う。

白石創生推進専門監 町内においても人口減少し、高齢化は進み、公共サービスの需要は拡大し、複雑で多様化している。このように社会情勢の変化に対応するため、町民と共通認識のもと、地域の力やコミュニティ

と協働するため、検討委員会を設置した。

議員 本町が目指す町民協働のまちづくりの姿とどう考えるか。

白石創生推進専門監 各地域における団体等が連携し、その地域の問題の解決や新たな取り組みを行う、地域自治運営の仕組みである。小学校区単位くらいと考えている。

町長 それぞれの地域が多様な考え方で、課題を見つけ解決していく。そして、地域住民の積極的な参加で、この地域も盛り上がりつつあるようなまちづくりを描いている。

議員 モデル校区の募集の考え方と行政の支援策については。

白石創生推進専門監 先進地の事例等を参考に、最初に駐在員や公民館長を対象に説明会を旧町単位あるいは小学校区単位で開催し、モデル

事業の募集のお知らせをしていく。

議員 各校区には公共的団体（区長会、公民館長会、生産組合長会、民生委員会）が機能しているが、管轄区域が交錯（ねじれ）している。見直しが必要ではないか。

総務課長 行政側が積極的に見直しを進めるのは非常に難しい面がある。それぞれの地域の実情や地域からの要望、意見等をくみながら対応していく必要がある。

議員 各地域には女性部組織が機能していたが、会員減少によりなくなりつつある。宮崎県綾町を婦人会で視察し、行政も同行されていたが、各地域の中に女性部の位付けがしっかりなされているか、どう考えるか。

生涯学習課長 綾町の視察に同行したが、地域の中にしっかりと位置づけられている印象だった。協働による地域づくり検討委員会の中で活発な意見が出ることを期待している。



九州北部の王城「須古城」
in 白石



溝口 誠 議員

問 災害時における一時避難所の設定と福祉避難所の運営は

答 自主防災組織の中で公民館など身近な施設を一時避難所として考えていきたい

議員 各地区や自主防

災組織において、身近な場所へ一時的に避難ができるよう地区内や近隣の施設(地区公民館、JA支所、事業所等)を避難所として認定できないか。

総務課長 身近な施設という点が、避難所を開設するうえで非常に重要であると認識して

いる。また、民間施設や事業所についても、今後協議を重ねながら緊急時の一時避難所として協定なども検討したいと考える。

議員 高齢者など配慮を必要とする方が安心できるよう福祉避難所の充実が必要であると思われるが、どのように認識しているのか。

総務課長 21箇所の避難所のうち7箇所を福祉避難所として指定している。バリアフリー化、和室などの個室があるのか、また場合によっては保健師の常駐など配慮を要する方が避難しやすい施設が重要となる。今後避難行動要支援者へ配慮した避難所の整備充実を進めたいと考える。

議員 災害用備蓄食品

(液体ミルク、アレルギー食品)への対応と有効活用は。

総務課長 今年度、ア

レルギー対応のアルファ米を備蓄食料として購入予定である。液体ミルクについては、安全性が確認できれば導入を検討したい。備蓄食品の有効活用については、地域防火クラブの防災講座や各種団体の研修、小学校での体験などに活用している。今後も防災意識向上のために有効活用していきたい。

※避難行動要支援者

災害時に自力での避難が難しく、第三者の手助けが必要な高齢者、障害者、難病患者などの災害弱者

問 地域の集いの場(サロン)の現状と今後の支援の在り方は

答 健康体操を中心に介護保険事業の活用により支援していきたい

議員 地域福祉の集

いの場であるサロンが充実しているが、町民協働によるまちづくりのためにも支援を強化してはどうか。

長寿社会課長

健康

づくりを目的とした住民主体のサロンにおいては、介護保険事業を活用しながら、充実できるように支援をしていきたい。



●シルバー人材センターによるボランティア活動



友田 香将雄 議員

問 「子育て世代包括支援センター」でワンストップ支援の充実を

答 様々な相談について包括的に対応する拠点とする

議員 子育て世代包括支援センターの現在の検討状況は。

保健福祉課長 平成

31年度中の開設を目標としている。

議員 センターで想定

している業務内容は。

保健福祉課長 妊産

婦・乳幼児等の状況把握、支援プランの作成、相談対応、関係機関との調整を行うなど、切れ目のない子育て

て支援をワンストップで行う。

議員 子どもは18歳まで支援が出来ないか。

保健福祉課長 18歳

までの対応を想定している。

議員 「子育て世代包括支援センター」は虐待防止に着目した事業だが、そのほか教育・保育・健康・障がいなど様々な相談について包括的に対

応するという認識でいいか。

保健福祉課長 その

認識で良い。関係各所

問 おたふくかぜ・ロタウイルス予防接種の助成を

答 重要性は認識しているが、今のところ助成は考えていない

議員 おたふくかぜ、

健康づくり専門監

ロタウィルスは時に重症化し、重篤な後遺症を引き起こす。しかし、この2つの疾病に対する予防接種は金額が高く、なかなか接種が難しい。費用の助成ができないか。

問 行政情報の積極的な発信を

答 職員一人一人の意識向上に取り組んでいく

議員 町の情報発信は

今後どう進めるのか。

総務課長 現在は総

務課の広報担当が情報発信を行っている。

議員 情報発信はルールを決めて運用して

との連携を強化しながら運用していきたいと考えている。

いるか。

総務課長 SNSに

関してはガイドラインを設けて運用している。職員個人のSNSに關しても禁止事項などの周知も併せ

で行っている。

議員 広報担当部署

だけでなく、職員全体が情報発信に取り組むという意識が必要ではないか。

総務課長 職員一人

一人の意識向上が必要と考える。研修など今後取り組んでいきたい。

問 若年層の投票率向上に向けた取り組みを

答 学校・家庭と連携して啓発を行っていく

議員 平成28年から

選挙権が18歳以上に変更となり、以降2年が経過した。高校生や20歳代などの若年層の投票率向上に向けて今後どのように取り組んでいくのか。

町長 町だ

けでなく、学校とも連携を取っていく必要があると思っている。



●期日前投票所



川崎 一平 議員

問 減少傾向にある農業後継者への対策は

答 後れを取らないよう進めていく

議員 後継者人口の推移はようになっていくのか。

農業振興課長 町内農業者人口は平成17年から10年間で476人減少している、1年間に50人前後減っていることになる。新規就農者については、平成27年は34人、平成28年は27人、平成29年は17人、平成30年は25人となっている。

予測としては、農業従事者の高齢化の現象は確実に進行している

と推察している。

議員 近年では新規就農者に対する事業などは様々行われているが、現在農業従事者の中核となっている世代、およそ30代半ばから50代への支援策を考えてみてはどうか。

農業振興課長 各種補助事業など広報紙を含め、ケーブルテレビなどで情報提供を行っている。あとは認定農業者になって頂き各種事業を活用していただきたい。

今後予測される農業者減少の手助けとして外国人技能実習生などの起用を推進してみてはどうか。

議員 今後予測される農業者減少の手助けとして外国人技能実習生などの起用を推進してみてはどうか。

農業振興課長 農業分野での生産技術また経営力などノウハウを持つ人材を育成し経営の高度化を進めていく必要がある。そのための経営展開に必要な人材を確保するため労働環境を整える必要があると思う。従って今後は本町にも必要になってくるものと考えている。

議員 技能実習生など町内従事者が増えれば、町としても人口増加につながるが、税制面などどのような影響があるのか。

税務課長 所得税や住民税などの増加が見込まれる。

議員 本町の基幹産業である農業への手助けを考え技能実習生なども踏まえて日々考えていかなければならないのではないのか。

町長 国の法律なども

問 小中学校の統廃合の考え方は

答 これから学校統合再編審議会で話し合う

議員 これから統廃合についてどう考えていくのか。

教育長 今後、少子化に伴い、中学校においては部活動がない、合同化も余儀なくされている。最も多感な時期であるにも関わらず多くの人の関わりが持てない。

小学校においては6年間クラス替えを経験できない現状は社会性を育む機会が少なくなっている。

財政面においても施設の老朽化対策などを考えると統合再編が必要と考えている。

議員 今後、審議会などで話し合いがなされ

変わってきている中、我々も遅れを取らないようにしっかりと取り組んでいく。

ていくが、いきなり結果だけを知らせるのではなく保護者はじめ色々な意見をしっかりと考慮し細やかに

な周知のもと進めていただきたい。

教育長 白石町のまちづくりに関わる重要な事項なので、町民の皆様にしつかりと関心を持っていただけるよう進めていく。教育委員会ですべて決まってしまうって報告というような事は決していない。



●杵島郡学力向上フォーラム



中村 秀子 議員

問 認知症の対策は

答 認知症の方やその家族が地域で安心して暮らせるまちづくりを進める

議員 認知症への町としての総合的な対策は。

長寿社会課長 地域づくりや、医療、介護等各分野の連携による取り組みを進める。特に次の3点を推進する。

- ①地域のネットワークにより、認知症の方やその家族支える地域づくり
- ②認知症に対する理解を促進する普及啓発講師役となるキャリアバンメイトの養成

議員 認知症の方の現状把握は。

長寿社会課長 個人情報の問題から正確な数は把握していないが、平成29年度で相談があったのは125件のうち25%である。

議員 認知症の早期発見と早期診断、予防は。

長寿社会課長 認知症を疑われるような時に包括支援センターに相談する。また対応力向上のため多職種連携研修会の開催や認知症予防教室、民間事業所と

の見守り協定の締結を図っている。

議員 元気のである学校については。

長寿社会課長 介護予防教室として、平成30年度から定員25名で、

介護認定のはざまの人を対象に、専門職によるプログラムを4箇月間行っている。

議員 正しい知識の普及啓発は。

長寿社会課長 適切なサービスの流れを示した住民向け冊子(ケアパス)を作成予定である。また、ボランティア養成講座を開催した

問 英語教育の充実はどのように進めるのか

答 各学校の推進リーダーを中心とした授業づくりをサポートする

議員 英語の基本は聞く力であると思うが目標は。

主任指導主事 指導要領に示されたようにコミュニケーションの素地を養う事を目標として、聞くこと話

り、キャラバンメイトによる町内の各事業所での研修会を開催したりしている。

議員 介護する家族の支援策は。

長寿社会課長 介護保険による訪問看護や軽度生活援助による支援を受けられる。認知症が軽度ならば、町単独事業の短期宿泊の利用も可能。平成31年度から一定の基準に合致した場合、地域の共助による取り組みで、助成が受けられる仕組みを構築したい。

議員 中学生が海外へ長期・短期のホームステイへの支援は。

学校教育課長 英検等の検定結果が大学の入学に活用されることとなっている。今後、国際化の中で英語は意思疎通の手段として重要であることから英検等の受験の推進を図ってきたい。

議員 中学生が海外へ長期・短期のホームステイへの支援は。

学校教育課長 県の中学生・高校生海外留学等助成事業を紹介したり、研修に行くときの

問 体育施設の空調設備は

答 費用の面からも現状では厳しい

議員 近年の猛暑は厳しく、夏季の行事は体育館の空調が必要な時代であり、中体連でも事故防止の必要性から空調設備のある体育館での開催を進められている。体育館へのエアコン設置の考えは。

生涯学習課長 体育館の空調設置はスポーツの振興、町の活性化に資する将来への財産と言えるが、現在の財政状況では非常に厳しい。熱中症対策はこまめな水分補給と適切な休憩を利用者に呼びかけたい。



●ALTを活用したふれあい遊び(絵本の読み聞かせ)

行事や課題・宿題の調整を図ったり等の支援をする。



西山 清則 議員

問 子供たちが郷土に愛着が持てるような機会を作るべきでは

答 焦点を絞って学ぶことになると思う

議員 本町の地場産品や農業資源などを利用した観光の取り組みは考えているのか。

な効果があったと認識しているのか。

産業創生課長 今までのモニターツアーを実施しながら、今後、収穫等の受け皿を受けていただくための方策を考えて行きたい。

産業創生課長 玉葱、レンコンのブランド化を広める目的で行って、PR活動を重ねていくうちに認知度が増している。

議員 首都圏や福岡市を中心に積極的なPR活動をされているが、交流人口の拡大については、具体的にどの様

議員 杵島山系の歴史と文化のある観光ネットワークの整備で、九州佐賀国際空港に白石をPRするためにポスター掲示は出来ないか。

産業創生課長 ポス

ターは掲示していないが、観光パンフレットは、今後、空港にも置きたいと思っている。また、外国語版も作成していかなければならないと思う。

議員 散策マップ等の説明・案内人はどうするのか、各所で説明できる方を育成は。

産業創生課長 町内

を説明・案内できる方たちの発掘や育成が課題であり、歴史に関係する場所には必要だと思っている。これから検討していかなければならない。

議員 本町にゆかりのある偉人や歴史を紹介していく機会を多く作るとともに、子どもたちが郷土に愛着が持てるような機会を作っていくべきではないのか。

主任指導主事 白石町

の歴史を学ぶことは非常に意義があると思うが、義務教育9年間で時間的に無理なところがある。よって、焦点を絞って学ぶことになると思う。

議員 稲佐山には東明

寺・十六羅漢像・龍造寺隆信の遺髪を祀っている神社があるが、草木が生い茂っている。そこには立派な紅葉の木もあるが、影を潜めている。どこが管理するのか。

生涯学習課長 隆信神

社の建築は東明寺によるものであるため、その管理は東明寺が行うものと考えている。今後、町と関係者で検討させていただきたい。

議員 白石町の陽興寺

にある龍造寺隆信の座像を小城市で展示された。なぜ町内ではできないのか。

生涯学習課長 町民の方にもご覧いただく機

会を設けたいと思っている。

問 福祉避難所を開設するには

答 まだまだ検討を要するところがある

議員 災害発生時に

避難を要する場合に、高齢者・車での移動が困難な方・障がい者の方など避難が遅れ被災されることも十分に考えられる。自家用車等の交通手段を持たない方も多い

議員 福祉施設を開設するには、物資・器材・人材が整っていないし、長期にわたり避難所生活になった場合は、いろんな支障が出てくると思われるが。

ため、地域の方も自主避難の段階から自宅近くの福祉施設を利用できるようにすることは出来ないか。

総務課長 毛布の配布や高齢者等のトイレ問題などがあり、今後、避難所運営には、まだまだ検討を要するところがある。

総務課長 今後、民間

の福祉施設の中で、災害時ににおいて避難行動要支援者の受け入れが可能である施設との協定の締結や協力依頼など検討していきたい。



●役場庁舎火災避難訓練

総務常任委員会

議会改革について意見交換

10月24日、全国で初の議会基本条例を制定された北海道栗山町を視察し議会改革の状況と議会基本条例の実践について意見交換を行った。

栗山町では、平成18年に全国で初めて議会基本条例を制定された後も随時、時代に即した見直しを進められていた。近年では、町民の議会モニターや議会サポーター制度を導入され、議会の政策立案能力の向上に努められていた。また、町の各種事業計画についても議決事件とするように条例を改正するなど、町民の考えと町の計画が乖離^{かいり}しない仕組みづくりを考えられていた。

総務常任委員会では、町民のための議会改革であることを再認識した。



●栗山町議会との意見交換

文教厚生常任委員会

大学と包括連携の仕組みを調査

10月24日、北海道由仁町を視察し星槎道都大学との包括連携の仕組みを活用した教育支援策について調査を行なった。

大学・町・教育委員会が包括連携を締結し、子ども達に、数々の体験を通して郷土の素晴らしさを学ばせ、子ども同士の絆作りを大切にする事業を実施されていた。子ども広報紙では、子ども自身が新聞社の方に取材の仕方・写真の撮り方・記事の書き方などを教わりながら、年4回も発行されて町のホームページにも掲載されていた。

文教厚生常任委員会では、今回学んだことを活かして、外部人材を活用した郷土愛を育む教育施策について、研究を深めていくことを認識した。



●担当者との意見交換

産業建設常任委員

土づくりについて意見交換

11月7日、山梨県北杜市の有限会社イズミ農園を視察し、代表の梅津氏と圃場の土づくりについて意見を交わした。健康でおいしい野菜づくりをモットーに、日々研究を重ねておられ、有益菌(酵母菌)を使った土壌づくりにこだわっておられた。また、金属イオンが土壌の殺菌作用を促すことを研究中的であることも説明を受けた。梅津氏は、国や県の研究委員や技術指導員、大手商社の農業指導員も歴任されておられ、野菜の物流・加工・調理に関連する広いネットワークを構築されている。玉葱^{たまねぎ}と病の克服のためにも、本町もこのような研究成果を取り入れることができるよう提言していきたい。



●圃場で土づくりの説明を受ける

議会出前講座

太原下地区に出向きました。町議会の報告、運転免許証返納に伴うタクシー割引、予約制いこカーの利用方法、学校統合、国民健康保険、有明沿岸道路の整備状況・道の駅しろいしの現状報告、防災対策、議会だよりなどについて意見交換を行いました。

各地域の皆様も会合の際には、どうぞ議会出前講座を活用ください。

◎ 11月19日

太原下鶴寿会（会員30人）

左から内野さよ子、西山清則、
定松弘介、前田弘次郎、溝上良夫



財政再生計画と地域再生への取組みを調査

10月24日、総務常任委員会と文教厚生常任委員会の合同で北海道夕張市を視察し財政再生計画とこれからの地域再生策について調査を行った。

夕張市では、石炭産業から観光産業へのシフト等の影響により、平成18年度に財政再建団体となって以来、財政再建を優先したことが住民の失望感を呼び、より人口流失が加速したことが報告された。322億円の借金を18年間で返済する計画は着実に実行されているが、これから地域再生と人口減少対策に取り組む必要があるとも報告された。このような事態に陥ることのないよう、健全財政とバランスのある地域振興の在り方について考える機会となった。



●担当者から説明を受ける

最近の主な議員活動 10月～12月

月	日	曜	
10	2	火	観光推進協議会 指定管理保育園評価審査委員会
	3	水	懲罰審査委員会 県民体育大会結団式
	5	金	学校訪問(白石中学校)
	7	日	町民体育大会
	9	火	学校訪問(福富小学校) 全国町村議会広報研修会
	11	木	議員例会
	12	金	国民健康保険運営協議会会長会議 国民健康保険セミナー 学校訪問(北明小学校)
	15	月	佐賀県町村議長会行政視察(～17日)
	17	水	環境審議会
	20	土	県民体育大会(～21日)
11	21	日	有明中学文化祭
	22	月	インバウンド講演会
	23	火	総務常任委員会視察研修(～25日) 文教厚生常任委員会視察研修(～25日) 杵藤地区消防本部・武雄消防署落成式 筑後川下流水利農業水利事業完工式
	24	水	学校訪問(六角小学校) 市町行政講演会
	26	金	差別の現実に学ぶ研修会 佐賀西部広域環境組合議会定例会
	27	土	福富中学校文化発表会
	28	日	白石中学校文化発表会 縫ノ池秋の茶会
	30	火	佐賀県後期高齢者医療広域連合議会定例会
	1	木	上峰町制30周年記念式典 県民体育大会表彰式 国道207号線期成会要望活動 同和問題市町講座

月	日	曜	
11	3	土	白石地域文化祭(～4日)
	5	月	議員例会 杵藤地区広域市町村圏組合議会全員協議会
	6	火	県町村議長会 産業建設常任委員会視察研修(～8日)
	11	日	有明文化まつり
	13	火	県町村議会広報研修会
	16	金	学校訪問(有明南小学校)
	17	土	六角川大橋連結式
	18	日	しろいしべったんご祭り
	19	月	議会出前講座
	20	火	全国町村議会議長大会
12	21	水	指定管理保育園評価審査委員会
	23	金	肥前さが幕末維新博「しろいしの日」
	25	日	子ども若者育成支援県民大会
	27	火	国保運営委員会
	29	木	学校訪問(有明東小学校)
	30	金	議会運営委員会
	2	日	杵島郡学力向上フォーラム
	4	火	杵藤地区広域圏組合全員協議会
	7	金	若手農業者との意見交換会
	11	火	議員例会
12	14	金	12月定例議会開会
	18	火	一般質問
	19	水	一般質問 子ども子育て会議
	20	木	議案審議
	21	金	議案審議、議会閉会
	22	土	白石町社会福祉大会
	25	火	西佐賀水道企業団議員全員協議会
	26	水	白石町文化振興財団評議委員会
	27	木	西佐賀水道企業団臨時議会

要望書を受け取りました 3件

●商工業振興対策費補助金の要望

提出者 白石町商工会長 門田憲治

●森林組合育成助成金予算措置に関する陳情

提出者 武雄杵島森林組合長 杉原豊喜

●「生涯現役社会」を実現するシルバー人材センターの決意と支援の要望

提出者 一般社団法人白石町シルバー人材センター



山口知事来訪 12月18日議会傍聴



編集後記



新年あけましておめでとうございます。今年は“平成”が終わり、新元号に移り変わる変化の年です。どのような元号になるのかまだ分かりませんが、新しい時代を象徴するような元号となるよう期待せずにはられません。

昨年は、明治維新150周年の年でしたが、明治から大正、昭和、そして平成と先人の^{たゆ}めぬ努力のおかげにより、こうして新時代を迎えることができていたのと感じています。

これから子どもたちに、未来というバトンをつないでいくためにも、町民の皆様と一緒に我々議会も昨年以上に精進してまいります。今年もよろしくお願いいたします。
(友田)

議会戦隊 炊飯ジャー

作: Sachiemon

第21話「除斥」(じょせき)



※「除斥」(じょせき)とは、議会における審議の公正を期するため、議題になった案件と一定の利害関係にある者を、その審議に参加できないようにすること。

◀すごい!議会だより9月号(第55号)の裏表紙で4コマまんがの作者(お母さん)を書いた絵が、JAのコンクールで入選されました。

[写真]市原優也くん(右)と佐知さん(左)



白石町議会だより/第56号



発行/白石町議会 佐賀県杵島郡白石町大字福田1247-1
TEL 0952-84-7126 FAX 0952-84-6611
編集/議会広報特別委員会
責任者/白石町議会議長 片淵栄二郎

編集委員/委員長 前田弘次郎
副委員長 友田香将雄
委員 川崎 一平
〃 定松 弘介
〃 中村 秀子
〃 重富 邦夫